

2012年8月よりアメリカ合衆国カリフォルニア大学バークレー校工学部 Applied Science and Technology 博士課程に所属しています、森亮です。渡米して10ヶ月経過しようとしています。これまでの状況等を簡単にレポートします。

1. 授業編

アメリカの博士課程は、例え修士号を取得してから入学する人でも、基本的に再度“やり直し”をしなければいけません。つまり、授業をバリバリに履修しなければいけないのです。私は日本の大学での学部時代、授業等にはほとんど出席せずに、薄っぺらな知識を携えて成績をとることを繰り返していた大脳スカスカ人間だったため、この“やり直し”はとても魅力的に感じました。というのも、日米の教育比較等の意見でよく聞く、あの“素晴らしいアメリカの授業”です、ただ授業に取り組んでいるだけで自分の今までの負の遺産をリセットしてくれるような、なんとも甘美で魅力的な響きを孕んでいました。

いよいよ入学して、授業を履修する際には、研究室の教授と相談して履修する授業を決め、「やってやるぜ！」と勢いよく取り組み始めました。しかし、日本語での授業でさえ、出席してもその場では理解せず、「後でやる気あるときに自分でやればいいや、寝よ。」というスタンスだった私です、いわんや英語での授業をや。三つ子の魂百までとはよくいったものです。私にとっての授業の重要度はいつの日か、ただのペースメーカーと化し、あんなに魅力的であった授業は、最終的には‘とりあえず出席さえすれば優勝！’ ‘最悪出なくてもなんとかなる！’というところまで落ちぶれました。その落ちぶれ方のスピード感たるや、ニュートリノ並みです。

先述した「アメリカの授業素晴らしい。マンセーマンセー。」系の意見に対しては、本当にモノに依る、と感じます。現実には日本と同様で、よく錬られた素晴らしい授業をする教授もいれば、わけのわからない授業を行う教授もやはりいます（その割合の程度についてはわかりませんが）。私も微妙すぎる授業を履修してしまいました。「アメリカ人は授業を大事にする」という謎の一般論があり、私も経験上それには概ね賛成ですが、そのアメリカ人達が「出る意味無し」と判断してこぞって出席しないようなハズレ授業です。とりあえず当初はずっと出席していたのですが「え、あの授業出たの？」と笑われました。

結局のところ、どの授業もトータルでいえるのは、宿題と試験を厳しくすることで、自習する時間を多くして定着を計る、という力技で、「この授業を受けてさえればオッケー」という魔法のような授業はやはり存在しないのではないかな、と感じます。良いと思った授業は粘り強く出席する、授業もきいてみてもどうしようも無いものはペースメーカーとして使用し、内容は自分でなんとかするというスタイルが結局のと

ころ残りました。そもそもその他力本願すら感じられる甘っちょろい心意気で「やってやるぜ！」と挑んでいた自分を深く反省しています。

2. 研究編

最初の学期は結果的にほとんど何もできずに終わった研究ですが、2学期目に入った瞬間に教授から、「明日までにテーマ決めてきて」といきなり無茶ぶりをされ、あるテーマについて、即席のとても低クオリティな「そりゃそうだろ！」と思わず自分でツッコミを入れたくなる軽いプレゼン（のような何か）をしたところ「Do it!」と元気よく言われ、本当にそれがテーマになってしまいました。僕の提案プレゼン自体は即席低クオリティでしたが、テーマとしては中々難しく、まず測定系の構築から始めなければいけません。必要な機器を購入してもらったのですが、ケチって中古で買ったため、最初からいきなり故障していました。自称修理屋である研究者に修理を依頼したところ、快く引き受けてくれましたが、返ってきたらさらに壊れており、結局業者の方と連絡をとりながら自分で動作チェックから行っています。

今まで測定系の構築などをきちんと行った事が無かったのですが、本当に簡単な原理のものでも、実装化するということはとても難しく、そして自分はとても疎いことに気がきました。今やっていることを通じて克服できるよう精進したいです。

3. 英語編

渡米 10 ヶ月が経過しようとする現在でも、未だに慣れた気はしません。むしろ「なぜこのような不便な言葉が世界共通語なのだ！ エスペラント語を適用するべきだ！」と逆切れするレベルです。TOEFL 対策などを必死にやっていたときと比べて、英語力（主に語彙力）堕ちてね？といった感じです。周りの同期の留学生達が、英語に対して「うほ、聞ける」「うほ、話せる」等と宣い、どこかでなんらかのブレイクスルーを感じていっている一方で、私はこれといったものは感じません。度胸と誤摩化し方はどんどんついていっている事はわかるのですが、肝心な実力としての英語力は伸びていっているのか自分ではさっぱりわかりません。時には、1日5分だけ聞き流すだけである日突然口から英語が飛び出ると評判の某教材に手を出すことも悩んでしまいます。私の所属している研究室は、博士課程の学生で留学生は私1人のみというアメリカ色の強い研究室です。皆が皆、インターナショナル慣れしてないので、容赦ない英語をツルツルと話してきます。彼らの英語はいつまでたっても完全には聞き取れません。おかげさまでラボミーティングのときなどは毎回変な汗をジーンワリとかいてしまいます。

さて、中間試験や期末試験シーズンになると、大学から、「Managing Stress During Final Exams」といった題名で、ストレス解消法やカウンセリングの案内を盛り込ん

だ内容のメールが散布されます。少なくとも僕がいた日本の大学ではこういったメールを流すという事は無かったのですが、これは成績をととても重視するアメリカならではの物では無いか、と思います。「要らぬお世話よ！」と思わずかんでしまうような（ストレスたまっていますね）、至極当たり前のストレス解消法がドヤ顔で書かれているという内容はさておき、「そもそも英語がストレスな場合は一体どうしろっつーんだ」と行き場の無い疑問がムクムクと吹き出てきます。向こうが英語を使用してくる限り、カウンセラーすらも敵です。ましてや英語でカウンセリングを受けるなんて、それ自体がストレスで禿げ散らかしてしまうのでは、と恐怖すら感じます。

と、以上のように謙虚な(?) 気持ちを忘れず、いつかくるブレイクスルーを信じて日々地道にアメリカ人達の英語を聞き流しつつ変な汗をかきながら図太く生きていきたいです。

4. 生活、雑感編

私は基本的に研究室から徒歩五分圏内に生息しているため、短期でパークレーに滞在している人達の方が、私より何倍も楽しい観光スポットに詳しいです。方や私というと、家から研究室に行くまでのわずか徒歩五分ほどの道のりでの、「この道のこの辺りは変な匂いがするなあ」という風な、最高にローカルで、果てしなくどうでもいいことにばかり詳しくなっています。自称‘温泉県’という場所で私は育ったのですが、温泉に入るなんて滅多にしないし全く詳しくないです。それと同じような現象が、ここカリフォルニアでも起きつつあります。「五年もあるから」とか余裕かましてどこにもいかない引きこもりの五年間を過ごしてしまうフラグがビンビンにたっています。

パークレーは様々な国の飲食店が乱立しており、食については全米の中でもとても恵まれている方だと思います。時に裏で何か労働力の搾取が行われているのかどうかと勘ぐってしまうレベルの安い物もあります。しかし、安い物は基本的にデブ飯で、異常にカロリーが高いです。そのようなデブ飯と仲良しし、先述のような徒歩五分圏内生活を続けた結果、もれなく私もブクブクと太りつつあります。メタボリックへの階段をゆっくりと、そして確実に踏みしめる中、このままではいけないと危機を感じ、軽い運動をしようと思い立って、ランニングを始めました。開始当初は「カリフォルニアでランニングする…オレ（遠い目）」と、ウツリと酔いしれていたのですが、そもそもの体力が無くなりすぎていた為か、ランニングした次の日の眠気が恐ろしく強くなり、勉強が一向にできないという状況に陥りました。睡魔のおかげで全く集中できないわけです。まさに健康と知力のトレードオフ。いつからこのような悲しい身体になってしまったのかわかりません。この状況を打破するために、雑誌の裏の広告等でよく見かける、集中力を高める石でできたブレスレッドの類いでも買おうかとす

ら迷うレベルに悩んでいます。なんとかこのようなスピリチュアルな石の力を借りずに、自力で生活習慣を改善して健康的な生活を送れるように精進したいです。まずは巷で話題らしいグリーンスムージーとやらから着手していこうと思います。

何かとストレスフルなアメリカ生活ですが、私はストレスと肌荒れが直結しており時にはものすごい事になったりするのですが、それにしてもここ最近の肌荒れ感は今までと種類が違い、どうしたものか…と悩んでいました。少し話は前後しますが、私は渡米してからいい匂いする系の洗剤を買い、日々洗濯に勤しんでいました。しかし、半年弱経過したある日、ふと気付きました。私が洗剤だと思って使っていたものが柔軟剤であったということに。「どうりで無駄にフワフワしていたわけだ！」と思ったときには既に時遅く、柔軟剤にまみれた、まるで死体のようにぐったりとした洋服が私の手元には大量に残りました。と同時に「肌荒れの原因ココにあり！」という結論も出ました（大量の柔軟剤はお肌に良く無いらしいです）。当たり前ですがきちんと調べてやるべきだったととても後悔しています。というかこれは留学全く関係無く、人間としてどうかという問題ですね、すいません。

以上が報告となります。個人的な体験や感想だらけで、一体誰がこんなものを読んで役に立つのだ…という完全なる自己満足な報告になりましたが、次回からはもう少し役に立つ何かを報告できるように努力したいと思います。



Fig.1 威厳漂うノーベル賞受賞者専用駐車場。私も威厳が欲しいです。